

## 【中国】

# 2020 年上半期の交通輸送統計

蔣 垂東 文教大学文学部教授

国家統計局の2020年1～6月上半期の鉄道、道路、水上輸送、民間航空方式別旅客と貨物の輸送統計および港湾貨物統計を通して、コロナ禍の中、上半期の中国の旅客・貨物の需要動向について分析を行います。

### 1. 旅客輸送量

2020年1～6月上半期の中国交通輸送の旅客需要は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、深刻なダメージを受けて、大きく落ち込んだ。表1は2020年上半期旅客総輸送量の月別推移を示している。

表1 2020年1～6月旅客総輸送量の月別推移

月	輸送量(万人)		輸送人キロ(億人 <sup>キロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	127,415	▲10.1	2,756.50	▲4.7
2	18,645	▲88.3	451.81	▲85.7
3	38,573	▲73.0	800.64	▲71.5
1～3	184,633	▲58.4	4,008.98	▲54.8
4	57,320	▲60.2	978.16	▲65.3
5	73,748	▲49.3	1,279.29	▲55.2
6	80,051	▲43.7	1,404.40	▲50.5
1～6	395,751	▲54.8	7,670.85	▲55.9

表1が示すように、月別では、1月は、武漢などの都市封鎖をはじめとする新型コロナウイルスの蔓延による影響が本格的に出始めたのが下旬だったため、旅客輸送量のマイナスは比較的小さな幅に止まったのに対し、2月は、全国規模の経済活動の停止と都市間移動の制限拡大により旅客輸送量は9割に迫る未曾有の落ち込みを記録した。3月は、下旬に封鎖解除に伴い経済活動が再開したものの、初旬と中旬のダメージが大きく、月間として7割を超す大幅なマイナスとなった。

4月以降、経済回復の足取りの加速に伴い、感染拡大防止策が続く中、大きなマイナスが続いているものの、マイナス幅は月ごとにほぼ10ポイントのペースで着実に縮小している。5月と6月のマイナス幅は50%を下回るようになったが、北京や東北地区など一部の地域で局地的な感染再拡大が見られたことに起因する感染拡大防止移動制限措置の再強化が需要回復に冷や水を浴びせた形となった。その結果、第二四半期のマイナス幅は第一四半期より約4ポイント改善したものの、半期ベースでは、前年同期対比約55%という大きなマイナスとなった。

表2～表5は鉄道、道路、水上輸送、民間航空方式別輸送手段の上半期の月別旅客輸送実績の推移を示している。どの方式も、1月のマイナス幅が最も小さく、2月と3月のマイナス幅が突出して大きかった。また、4月以降月別にマイナス幅が縮小し、5月と6月のマイナス幅はいずれの方式でもほぼ50%を下回る水準で推移した。

表2 2020年1～6月鉄道旅客輸送量の月別推移

月	輸送量(万人)		輸送人キロ(億人 <sup>キロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	27,126	▲4.3	1,198.08	▲2.0
2	3,723	▲87.2	185.09	▲86.4
3	7,495	▲73.1	338.98	▲69.3
1～3	38,344	▲55.1	1,722.15	▲53.3
4	11,160	▲63.6	437.34	▲62.6
5	15,675	▲49.1	555.24	▲52.4
6	16,589	▲46.0	574.03	▲51.4
1～6	81,768	▲53.9	3,288.77	▲54.3

四半期別では、鉄道と航空の第二四半期のマイナス幅がむしろ拡大したのは、両方式は旧正月大型連休による需要で1月の輸送実績が好調だったため、マイナス幅は1ケタ台の前

半に止まり、第一四半期の落ち込みを軽減させたことが要因だった。半期統計では、全方式でマイナス幅が50%を超えたが、鉄道と航空は53.9%と54.2%で平均の54.8%を下回った。一方、道路は平均に近い水準だったが、最大のマイナス幅を記録したのは水上輸送の56.7%だった。

表3 2020年1~6月道路旅客輸送量の月別推移

月	輸送量(万人)		輸送人キロ(億人 <sup>キロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	93,839	▲11.9	625.89	▲11.2
2	13,792	▲88.7	103.66	▲87.7
3	29,007	▲73.1	214.27	▲71.6
1~3	136,637	▲59.4	943.82	▲59.1
4	43,603	▲58.8	290.56	▲58.4
5	54,234	▲49.2	351.58	▲51.1
6	59,140	▲43.1	388.19	▲44.6
1~6	293,613	▲55.0	1,974.15	▲55.4

\*輸送業者の輸送量に限定、自家用車の利用者を除く。

表4 2020年1~6月水上輸送旅客輸送量月別推移

月	輸送量(万人)		輸送人キロ(億人 <sup>キロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	1,390	▲7.1	4.28	▲7.9
2	297	▲87.2	0.96	▲85.0
3	557	▲72.3	1.33	▲75.8
1~3	2,243	▲61.4	6.55	▲60.4
4	886	▲61.8	1.89	▲71.6
5	1,255	▲51.0	2.55	▲64.4
6	1,248	▲46.0	2.42	▲62.5
1~6	5,632	▲56.7	13.41	▲63.6

表5 2020年1~6月航空旅客輸送量の月別推移

月	輸送量(万人)		輸送人キロ(億人 <sup>キロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	5,061	▲5.3	928.27	▲3.4
2	834	▲84.5	162.10	▲83.1
3	1,515	▲71.7	246.06	▲73.9
1~3	7,409	▲53.9	1,336.46	▲53.3
4	1,671	▲68.5	248.37	▲73.6
5	2,583	▲52.6	369.93	▲61.5
6	3,074	▲42.4	439.76	▲53.8
1~6	14,738	▲54.2	2,394.52	▲58.1

## 2. 貨物輸送量

中国の経済成長率(GDP)は、1~3月の第一四半期は6.8%のマイナスだったが、4~6月第二四半期はいち早く新型コロナウイルスによる影響から抜け出し、経済活動が順調に回復の軌道に乗ったため、5.2ポイント上昇して、3.2%増というプラス成長に転じた。1~6月の半期統計では実質GDP成長率は前年の同期に比べ(以下同じ)1.6%のマイナスとなったが、主要国の中でマイナス幅が最も小さかった。上半期の旅客需要が50%を超えて大きく落ち込んだのに対し、貨物需要のマイナス幅が1ケタ台に止まったのはこうした中国経済の回復を反映している。

表6は、2020年1~6月貨物総輸送量の月別推移を示している。1月は、旧正月の大型連休に加え新型コロナウイルスの感染拡大による影響が出始めたため、貨物需要は大きく落ち込み、2月は、全国規模の経済活動の停止と地域間の交通規制が行われたことにより、最大の落ち込み幅を記録した。3月は、下旬に経済活動が再開となった以降、月を追って需要が回復し、5月と6月はプラス成長に転じた。その結果、四半期別では、第二四半期のマイナスは第一四半期に比べ大きく改善し、半期統計ではマイナス幅は1ケタ台にまで縮小した。

新型コロナウイルスの感染拡大によるダメージが最も深刻だった2月の貨物需要の減少幅が3割以下に止まったのは、マスク、消毒液をはじめとする防疫物資および生活支援物資の輸送特需があったためである。

表6 2020年1~6月貨物総輸送量の月別推移

月	輸送量(万ト <sup>ン</sup> )		輸送トンキロ(億ト <sup>ン</sup> キ <sup>ロ</sup> )	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	301,042	▲17.0	13,796.34	▲14.1
2	154,984	▲29.9	10,051.74	▲18.7
3	325,647	▲13.0	14,633.11	▲9.0
1~3	781,673	▲18.4	38,481.19	▲13.6
4	384,525	▲2.1	15,685.58	▲4.1
5	406,968	0.4	16,612.49	▲2.2
6	413,952	3.9	17,030.52	4.0
1~6	1,987,117	▲7.8	87,809.79	▲6.8

表7~表10は鉄道、道路、水上輸送、航空の方式別の上半期の貨物輸送実績の月別推移を示している。鉄道は旧正月大型連休の影響で、マイナスとなった1月以外、ほぼプラス成

長を維持していた。武漢などの都市封鎖が実施され、旅客需要が最も大きく落ち込んだ2月は第一四半期で最も高い6%の伸びを記録したのは、上述したようにマスク、消毒液などの防疫物資、封鎖された地域への生活物資輸送の特需を反映している。高速旅客列車を使つての防疫物資輸送の話題が記憶に新しい。6月の7%台のプラスは実態経済の回復を示すものである。

道路貨物輸送量は、2~4月で2ケタ減が続いていたのは、都市封鎖により、地域間の道路交通が大きく規制されたことを反映している。規制解除後の5月と6月はプラスに転じた。

表7 2020年1~6月鉄道貨物輸送量の月別推移

月	輸送量(万ト)		輸送トンキロ(億トキ)	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	36,313	▲1.2	2,472.08	▲3.4
2	31,576	6.1	2,111.42	▲3.8
3	35,189	1.3	2,323.59	▲5.2
1~3	103,079	1.8	6,907.07	▲1.9
4	32,723	▲2.6	2,138.11	▲10.2
5	36,660	1.3	2,469.13	▲2.3
6	37,905	7.0	2,578.76	5.6
1~6	210,367	1.9	14,093.08	▲2.1

表8 2020年1~6月道路貨物輸送量の月別推移

月	輸送量(万ト)		輸送トンキロ(億トキ)	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	210,748	▲20.2	3,690.21	▲20.6
2	82,736	▲40.5	1,396.40	▲41.5
3	235,348	▲14.9	4,141.32	▲14.5
1~3	528,831	▲1.4	9,227.94	▲22.3
4	290,543	▲15.9	5,156.68	1.6
5	304,297	0.4	5,217.35	1.6
6	308,539	4.3	6,583.49	6.6
1~6	1,432,200	▲9.0	26,185.46	▲7.8

水上輸送も、第二四半期は、4月と5月はマイナス幅が縮小し、6月はプラスに転じた。航空貨物需要のマイナスが突出していたのは、航空貨物輸送の多くは旅客便の貨物室を利用するという輸送形態の特質によるものである。旅客需要の大幅な減少に伴う国内旅客便の大幅な減便と国際線旅客便のほぼ全面運休により、航空貨物の輸送力が激減した。国際航空郵便の受付停止という荷滞りが起きたのもその表れである。

国内移動制限の全面解除により、国内線の運航が大幅に回復し、これを反映して、6月のマイナス幅は1ケタ台へ急速に縮小した。

表9 2020年1~6月水上交通貨物輸送量の月別推移

月	輸送量(万ト)		輸送トンキロ(億トキ)	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	53,921	▲12.6	7,613.73	▲13.8
2	40,643	▲22.2	6,532.75	▲17.5
3	55,061	▲12.6	8,150.87	▲7.0
1~3	149,625	▲1.4	22,297.34	▲12.7
4	61,210	▲4.8	8,373.45	1.6
5	65,956	▲0.2	8,905.08	1.6
6	67,460	0.8	8,846.92	6.6
1~6	344,250	▲8.0	48,422.79	▲7.8

表10 2020年1~6月航空貨物輸送量の月別推移

月	輸送量(万ト)		輸送トンキロ(億トキ)	
	実績	対比(%)	実績	対比(%)
1	61	▲9.8	20.36	▲8.4
2	30	▲21.0	11.16	▲19.4
3	48	▲23.3	17.32	▲23.3
1~3	139	▲17.4	48.83	▲16.7
4	48	▲19.5	17.34	▲19.2
5	55	▲12.0	20.93	▲6.9
6	58	▲5.7	21.35	▲1.6
1~6	300	▲14.8	108.46	▲12.7

### 3. 港湾貨物取扱量

表11は、2020年1~6月上半期の全国港湾(下段は沿海港湾)の貨物取扱量と港湾貨物に占める対外貿易貨物取扱量の月別推移を示している。

表が示すように、上半期の港湾の貨物取扱量は、1~3月第一四半期はマイナスに陥っていたが、率は5%以下で比較的小さな幅だった。4~6月はプラスに転じ、伸び幅は月を追って大きくなり、6月は1ケタ台の後半という高い水準を記録した。半期統計は、大方の予想に反して小幅なプラスだった。

上半期の港湾貨物総取扱量をプラスに維持させた要因は対外貿易貨物取扱量の増加だった。港湾貨物総取扱量の大宗を占める対外貿易貨物は3月を除き、プラスで推移し、新型コロナウイルスによるダメージが最も大きかった第一四半期で

すらマイナスに落ち込むことはなかった。3月以降、新型コロナウイルスの世界規模の感染拡大に伴うマスク、呼吸器をはじめとする防疫物資の需要および新しい生活様式の変化にともなうリモート関連用品などの需要が急速に高まった追い風に乗って、輸出の拡大が続いた。6月の伸び率は8%台を記録し、二ケタ台に迫る勢いを見せた。こうした港湾対外貨物取扱量の動きは輸出入金額の推移にも反映している。

税関統計によると、今年1～6月上旬半期の中国の対外貿易(物品ベース)の輸出入総額が14.24兆元(1元=約17円、以下同じ)を数え、前年の同じ時期に比べ3.2%減少した。内、輸出は3%減の7.71兆元、輸入は3.3%減の6.53兆元だった。四半期別では、4～6月第二四半期の輸出入金額が7.67兆元で、前年同期をわずかながら0.2%下回ったものの、1～3月第一四半期に比べ、マイナス幅が6.3ポイントと大幅に縮小した。月別では、4月から3カ月連続でプラスで推移し、6月は輸出額で5.1%、輸入額で4.3%、輸出入合わせて6.2%伸びた。

表11 1～6月港湾貨物&対外貿易貨物取扱量の月別推移

月	総取扱量		対外貿易貨物	
	実績(万ト)	対比(%)	実績(万ト)	対比(%)
1	110,233	▲3.4	38,274	1.3
	75,793	▲2.6		
2	80,646	▲9.0	30,520	0.3
	58,440	▲6.9		
3	109,848	▲2.4	35,383	▲0.6
	73,358	▲2.6		
1～3	300,727	▲4.6	104,187	0.3
	207,591	▲3.9		
4	119,273	4.1	35,358	2.4
	76,466	1.6		
5	125,516	4.4	36,990	0.9
	80,707	2.0		
6	129,697	6.9	39,380	8.4
	85,106	7.6		
1～6	675,213	0.6	215,916	2.2
	449,869	0.1		

\*下段は沿海港湾の取扱量

なお、注目の対米貿易は、上半期の金額は1.64兆元に止まり、6.6%減少した。内、対米輸出は8.1%減の1.25兆元、対米輸入は1.5%減の3,956.2億円で、貿易黒字は10.8%減の8,517.4億元に縮小した。中国の対外貿易に占める対米貿易

の比重はアセアン(5.6%増の2.09兆元)、EU(1.8%減の1.99兆元)に次ぐ3位に後退し、対米依存度がさらに低まったことを反映している。

中国内の新型コロナウイルス感染の沈静化に伴う経済活動の正常化が加速する中、下半期の旅客需要の回復が持続的に拡大し、年末までにマイナス幅を大きく縮小するものと観測されている。貨物需要は、経済成長の回復基調の追い風に乗って、プラス成長を回復する公算が大きい。また、新型コロナウイルスの世界的な蔓延に終息の見通しが立たない中、国際市場における防疫物資需要とリモート関連物資需要の高まりが今後も続くことから、対外貿易貨物の取扱量の伸びが引き続き高い水準で維持することが予想される。

出典：

・国家統計局サイト

(1)<https://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=A01>

(2)[http://www.stats.gov.cn/tjsj/sjjd/202007/t20200716\\_1776345.html](http://www.stats.gov.cn/tjsj/sjjd/202007/t20200716_1776345.html)

・中国新聞社サイト

(3)<http://www.chinanews.com/shipin/spfts/20200713/2891.shtml>